

パネル展【やらざるを得なかった日韓併合】の開催に当たって

平成22年7月15日

8月22日は日韓併合100年を迎えます。これを機に歴史の立て直しと称し、日韓併合無効論を展開する韓国に対し、日本政府、マスコミ、保守系団体は殆ど人ごとのように無視しています。これは昨日今日に始まったことではなく、戦後65年間、朝鮮問題となると政府はじめ国民も腰が引け、議論を避けてきたのです。議員や知識人が勇気を持って日本の正当性に言及すると、左翼やマスコミから叩かれ、大臣を辞職する羽目になったり、マスコミから干されたりして、ますます消極的になりました。韓国による竹島の不法占拠と北朝鮮による拉致は、日本の国家主権の侵害だというのに、政府とマスコミの対応は常に生ぬるく、なぜか国民の反応も鈍いのです。

一方、朝鮮民族は日本と朝鮮半島の歴史について、政府や議会、左右全てのマスコミ、知識人が一体となって歪曲、捏造、侮日を繰り返し、それを世界に向けて発信してきました。「嘘も百回言えば真実となる」の例えどおり、多くの国々が韓国・北朝鮮の嘘に惑わされ、反日国はこれを利用して国連を通じて「従軍慰安婦」などで日本を非難するようになったのです。韓国の歴史捏造を甘く見てきた日本は、いまや世界から道義的、倫理的犯罪国家と見なされるようになってしまったのです。

どうして、日本はこんな不甲斐ない国になってしまったのでしょうか？

最大の原因は、戦後の日本が自国の誇りある歴史を自ら否定してきた事の結果だと言えます。「日韓併合」も朝鮮半島の侵略と植民地化だったなどと自ら歴史の真実を否定し、矮小化してきた結果、「臭いものには蓋をする」意識が働き、国益を大きく毀損する朝鮮民族の許し難い歴史歪曲に対しても、反論による摩擦よりも無視する不作為で自らを誤魔化してきたのです。保守論者の中にも、「反論しないのは、国を奪われた朝鮮民族に対する武士の情けであり、惻隠の情でもある」等という人もいますが、朝鮮民族に武士の情けも惻隠の情も理解する心がないのですから、それは無駄な思いやりであり、偽善と言うべきでしょう。

かつての日本は、日清戦争で支那から未開の地であった台湾を割譲されるや、西欧列強の植民地政策とは異なる「内地化」という手法で瞬く間に近代化し、歴史上1500年の支那の属国で疲弊しきった朝鮮を併合するや、これも同じ手法で世界が目を見張るような早さで近代化したのです。満州の原野にたった15年で五族共和の工業国家満州帝国を築いたのも同じ手法であり、そこに善政を敷いた日本は、当時、支配を受けた全ての民族から賞賛を受け、西欧列強からは名実共にアジアの盟主として認められていました。

台湾、朝鮮、満州の民衆に永遠に続くと思われた幸せが、日本の敗戦と共に一瞬にして夢と化したことは、希望が大きかっただけに、戦争に負けた日本に対する彼らの恨みも大きかったかも知れません。しかしながら、西欧列強の植民地政策とは異なる内地化という手法で日本が培った近代化の遺産という果実は、台湾にも韓国にも見事に根付き、満州帝国の遺産も中華人民共和国の発展に大きく貢献したのです。したがって私たち日本人は、父祖が為したアジアにおける貢献を誇ることはあっても卑下することは何もないし、ましてや謝罪する必要など全くないという事を肝に銘じておく必要があるのです。

もう、これ以上の自虐と怠慢と偽善は日本を破壊し、私たちの子孫を苦しめるだけです。それだけではなく、嘘の歴史の中で空しく代を重ね、歴史と遊離した根無し草となる朝鮮の民のためにも、「日韓併合」の真実の歴史を明らかにしなければならないのです。それは日本国民にとっても、たった一度戦争に負けただけで、日本の類い希なる誇りに満ちた歴史を捨て去った戦後65年の過ちを正そうとする行動であり、「新しい歴史教科書をつくる会」と「自由主義史観研究会」が率先して為さねばならない義務だと私達は考えています。

「日韓併合から100年シンポジウム」実行委員会
「新しい歴史教科書をつくる会」東京支部+三多摩支部・「自由主義史観研究会」